

コーパスに見る漢語「無理」の歴史

高橋 圭子(東洋大学)

東泉 裕子(明治大学)

The history of Sino-Japanese muri 'no reason' through the corpora

Keiko Takahashi (Toyo University)

Yuko Higashiizumi (Meiji University)

要旨

漢語名詞「無理」は、15世紀頃には「理(ことわり)無し」という文字通りの意味であったが、17世紀頃には「強引な」「不可能な」という意味でも用いられるようになってきた。さらに、現代に入り、文法的接辞を伴わない「無理」の裸の形式や「無理無理」などの反復形式による、断り・不承諾の意味を表す応答表現としての用法や副詞用法が観察されるようになる。また、インターネットを中心に「耐えきれないほど素晴らしい」というプラスの意味の用法も出現してきた。このような「無理」の歴史を各種コーパスからたどり、語用論的標識の発達という観点から考察した。(264字)

1. はじめに

現代日本語における漢語「無理」という語の意味として、『広辞苑第七版』(2018)は(1)に示す3種類を記述している¹。『デジタル大辞泉』『大辞林』の記述もほぼ同様である。品詞は、後二者は名詞・形容動詞とするが、形容動詞を認めない前者は名詞としている。

- (1) a. 道理のないこと。理由のたたないこと。「無理を通す」「無理を言う」「怒るのも無理はない」
- b. 強いて行うこと。「無理をして体をこわす」「無理に連れ出す」
- c. 行いにくいこと。するのが困難なこと。「無理な頼み」「子供には無理だ」

また、現代語の「無理」には(2)・(3)のような意味・用法もある。用例は、『現代日本語書き言葉均衡コーパス(The Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese: BCCWJ)』(コーパス検索アプリケーション『中納言』)のものである。

- (2) a. メダルなしより「疲労骨折」の川崎選手を、ムリ起用した星野「元」監督に・・・喝! だあ〜() _ ()
【出典】BCCWJ, サンプルID: OY02_00359, Yahoo!ブログ, 2008年
- b. 他さ出て行っつてのを無理引き止めるわけにゆかんかったで、「お前良か如せろ」ち言たわけよ。
【出典】BCCWJ, サンプルID: LBb9_00030, 吉田司(著)『下下戦記』, 1987年
- c. だけどおんなじようなものはみんーなかためて、こう寄せ集めて、むりむり簡単化しちゃうと三つになっちゃうわけですね。

¹ 引用は、表記など改めた箇所がある。下線も、稿者によるものである。以下同じ。

【出典】BCCWJ, サンプルID : OB1X_00242, 坂東義教(著)『坂東先生の教育講座』, 1980年

- (3) a. 「お前、しっかりしろよ」「無理」「お前、飯くらい食べよ」「無理」「お前、少しくらい寝ろよ」「無理」

【出典】BCCWJ, サンプルID : OB6X_00247, 金原ひとみ(著)『蛇にピアス』, 2004年

- b. 昨日クマママさんが、予約注文の梅二十キロを運んで来た。「ついでにお砂糖4キロ買ってきて・・・」と欲張りババの声に・・・「無理無理、自転車がつぶれるヨー」

【出典】BCCWJ, サンプルID : OY05_01089, Yahoo!ブログ, 2008年

- c. あいのりの「おまみ」きつい・・・・・・・・・・?!あなたは、どう思う?!無理!!! 近くにいたらかなりウザイ!!!!!!!!!!!!!!

【出典】BCCWJ, サンプルID : OC01_00608, Yahoo!知恵袋, 2005年

(2a)・(2b)は「無理」単独、(2c)は「無理無理」という反復形式で、いずれも副詞として用いられている例である。同じく副詞用法である(1b)「無理に」が「に」を伴った形式であるのに対し、(2)は「無理」という「裸の形式」である²。以下、本発表では活用語尾・助詞・助動詞など文法的機能を担う接尾辞を伴わない形式を「裸の形式」と呼ぶ。また、表記は漢字で代表させる。

(3)は、「無理」が「裸の形式」で「応答表現」³として用いられている例である。(3a)は単独、(3b)は反復形式である。これらは「できない」という意味で、命令・指示・依頼などに対する断り・拒絶として機能している⁴。また、(3c)は、「我慢できない、耐えられない、いやだ」という意味である。これについて、『三省堂国語辞典』は第七版から(4)のように説明している。さらに、インターネット上には(5)のような記述もある。否定的意味を持つ表現が肯定的意味に転じる点は、「ヤバい」などに通じ、興味深い⁵。

なお、管見では、(3c)・(4)を除き、(2)・(3a)・(3b)・(5)の意味・用法を記述した辞典は見当たらない。

- (4) むり【無理】(名・自サ・形動ダ) 4. (俗)いやなようす。受け入れられないようす。「女子を呼び捨てにする男子って、無理!」 『三省堂国語辞典』第七版(2014)

- (5) 【無理(むり)】意味：愛しさが極まり、キャパオーバー。
逆説型の肯定語。「好きなアイドルのライブに行ったら彼らが登場すると、『えっえっ無理待って無理しんどい、えっ』と混乱しながら無理を連発してしまう」(23歳・会社員)など、「しんどい」など類義語との⁶合わせて使われることも多い。「無理無理無理無理無理無理」と反復させると、さらに強調される。

² (2a)は「無理起用」という(臨時的な)複合名詞、(2b)は地域方言に由来する可能性もある。

³ 「応答表現」の本稿における定義は2節で述べる。

⁴ このような「無理」の意味・用法については、テレビ朝日によるウェブサイト「アナウンサーズ」内の「日本語研究室」においても取り上げられている。

⁵ (3c)や(5)の意味のLINEスタンプも多数ある。ご教示くださった山本ゆうかさんに感謝申し上げます。

⁶ 原文のまま。

本発表では、コーパス所収の「無理」の用例をたどり、(2)～(5)のような現代語の意味・用法に至る歴史の一端を探る。

2. 先行研究

近年注目を集めている研究分野に、歴史語用論(historical pragmatics)・歴史社会言語学(historical sociolinguistics)・歴史社会語用論(historical sociopragmatics)がある。これらは、個々に行われてきたことばの歴史的研究に、社会言語学や語用論の視点や方法を取り入れ、ことばの変化を、社会的・文化的背景、コミュニケーションにおけることばの使用と関連づけながら探求する研究領域である (Jucker and Taavitsainen (eds.), 高田他編 2011、高田他編 2015、椎名 2016、高田他編 2018 など)。

これらの分野の主要な研究テーマの一つに、語用論的標識(pragmatic markers)の歴史的発達がある⁷。語用論的標識とは、発話において命題内容以外の対人的かつテキスト的機能を持つ要素である⁸。日本語における語用論的標識の歴史的発達の研究は、「やっぱ(り)」「だって」「わけ」「って」など和語を中心に行われてきた⁹。一方、漢語についても「実際」「事実」「相当」「随分」「道理」などの和語化の進行にともなう語用論的標識化が報告されている (三枝 2013、趙 2013、鳴海 2015、柴崎 2017、Shibasaki 2018, 2019a, 2019b など)。

高橋・東泉(2018)は「結果」、高橋・東泉・佐藤(2018)は「了解」、Higashiizumi and Takahashi (2020)、高橋・東泉(2019, 2020)は「勿論」の用例をさまざまなコーパス・データベースからたどり、漢語由来の名詞の語用論的標識化の歴史を探っている。これらの語は名詞からそれぞれの複雑な過程をたどりつつ、「結果」は副詞・接続詞的用法、「了解」「勿論」は応答表現の用法を発達させ、語用論的標識の機能を獲得している。

なお、本発表では「応答表現」の定義を、柏野 (2019)を修正し、「先行発話や文脈に応じ、何らかの反応を返す表現」とする。柏野(2019)は、「相手の発話に応じ、何らかの反応を返す表現」を「応答表現」と呼び、「うん」「はい」「ああ」など学校文法では感動詞に分類される語だけでなく、「ですよね」「だろうね」などのいわゆる文末表現や、「いいね」「さすが」「すごい」といった感動詞以外の品詞の語句も「応答表現」に含まれる、としている。感動詞以外の品詞の語句を「応答表現」として分析した研究には、「なるほど」を取り上げた土屋(2012)、「もちろん」「たしかに」「なるほど」を取り上げた蓮沼(2018)などがある。本発表では、(3)・(5)のような「無理」の用法を「応答表現」ととらえる。(5)は、好きなアイドルの登場という先行文脈に対する反応であるが、相手の発話に対する反応と同様「応答表現」であると考えられる。そこで、柏野(2019)の定義を上述のように修正することにした。

本発表では、漢語名詞由来の「無理」の歴史を探り、語用論的標識の発達という観点から考察する。

⁷ 「語用論的標識」の訳は、澤田他(訳) (2018)、椎名(監訳) (2020)による。語用論的標識は、談話標識(discourse markers)、談話不変化詞(discourse particles)などとも呼ばれる(澤田他(訳) 2018: 54)。

⁸ 語用論的標識の定義・機能、研究背景などについては、Brinton (2017: 2–11)が詳しい。

⁹ これらの例は Shinzato (2017: 308)の Table1 による。

3. 国語・漢和辞典における「無理」の歴史

『大漢和辞典』『日本国語辞典第二版』『角川古語辞典』『時代別国語大辞典室町時代編』『新明解語源辞典』の「無理」の記述をまとめると(6)のようになる。

- (6) a. 道理に反すること。筋が通っていないこと。また、そのさま。
- ・韓愈「答柳柳州食蝦蟇詩」(819)「鳴声相呼和、無理祇取鬧」¹⁰
 - ・文明本節用集(1474)「無理 ムリ」
 - ・史記抄(1477) 一五・寶田「寶嬰灌夫二公は、無理なる罪に逢たぞ」
 - ・和漢通用集 (1596-1644)「無理 むり 道理なき也」
 - ・日葡辞書 (1603-04)「Muri(ムリ)。コトワリ ナシ」
- b. しいて行なうこと。強引に事をなすこと。道理のないことや相手に受け入れる気のないことなど、実現不可能ないし実現困難なことを強引に行うさま。また、そのさま。
- ・顔氏家訓 (600 頃) 省事「若横生図計、無理請謁、非吾教也」
 - ・三国伝記 (1407-46 頃か) 六・一「地獄を作りて、凶人を獄率と為し、無理に罪人を墮す」
 - ・史記抄 (1477) 呂不韋伝「無理な所望をしたぞ。此姫を我にくれよと云ぞ」
- c. 困難である。できない。
- ・評判記・剥野老 (1662) 跋「かかるこはごはしきむばらの口はあくが無理なれども、ただうちあらはれたる玉のきずをのみしるすなめり」
 - ・槐記・享保一二(1727)・閏一・二八「(ソノ書ノ流儀ハ、楷書カラデハナク)先(まづ)草・行から習ひ初るだにむりなるべき事也」
 - ・黄表紙・江戸生艶気樺焼 (1785) 下「名にながれたるすみだ川、たがいにむりを五百崎の、鐘は四つ目や長命寺」

(6)からは、「無理」という語は漢詩文に由来する漢語であり、室町時代には(6a)・(6b)の意味で用いられ、江戸時代以降(6c)の意味が出現し始めたことが見てとれる。

ただし、いずれの辞典も「無理」の原義は字義どおりの(6a)とするが、用例は(6b)のほうが早い。さらなる用例の発見が期待される。

4. リサーチ・クエスチョンおよび調査方法

「無理」の語の歴史のうち、本発表では、(2)・(3)・(5)にあげたような副詞や応答表現としての用法の、出現ないし萌芽の時期を探ることを目標にする。

表 1 は、調査に用いるコーパスをまとめたものである。いずれのコーパスも国立国語研究所コーパス開発センターによる。検索は、コーパス検索アプリケーション「中納言」を利用し、語彙素「無理」をキーに指定した。検索時期は、2020年6～8月である。

表 1 調査対象コーパス

コーパス名	収録年代	記号・補助記号・空白を除いた検索対象語数	データバージョン	中納言

¹⁰ 長澤(編)(1975: 157)の訓点に従って書き下すと(i)のようになる。

(i) 鳴聲相呼て和す 理無く祇鬧ふを取る

日本語歴史コーパス(Corpus of Historical Japanese: CHJ)	8c 頃-1947	16,866,309	2020.03	2.5.2
現日研・職場談話コーパス(Gen-Nichi-Ken Corpus of Workplace Conversation: CWPC) (現代日本語研究会(編) 2011)	1993-2000	186,906	2018.03	2.4.2
名大会話コーパス(Nagoya University Conversation Corpus: NUCC) (藤村他 2011)	2001-2003	1,131,971	2018.02	2.4.2
日本語日常会話コーパス モニター公開版 (Corpus of Everyday Japanese Conversation: CEJC)	2014-2015	610,959	2018.12	2.4.5

5. 調査結果

5.1 室町・江戸時代の「無理」の用例

CHJ では、奈良・平安・鎌倉時代の「無理」の用例は見当たらない。表 2 は、室町・江戸時代の「無理」の用例を時代別・サブコーパス別にまとめたものである。最も早い例は(7a)で、意味は(1a)である。最多の例は(7b)のような「無理に」の形式の副詞用法である。

表 2 CHJ における室町・江戸時代の「無理」の用例数

用法	形式	室町		江戸			計	%
		キソツク	狂言	近松	洒落本	人情本		
連体修飾	無理な	1	6	1	6	9	23	9.4
	無理なる	0	0	0	0	3	3	1.2
副詞	無理に	0	47	3	18	31	99	40.4
	無理無体に	0	0	3	4	1	8	3.3
名詞	無理+無助詞 ¹¹	0	0	1	0	4	5	2.0
	無理+格助詞	0	2	1	9	17	29	11.8
	無理+副助詞	0	0	0	5	23	28	11.4
述語	無理+copula	0	1	0	10	18	29	11.8
	無理+終助詞	0	0	0	0	3	3	1.2
複合名詞	無理酒など ¹²	0	0	1	3	13	17	6.9
意味・用法不明		0	0	0	1	0	1	0.4
計		1	56	10	56	122	245	100.0

- (7) a. 平家の悪行はこればかりでも御座無い、その上無理な位争いをして、数多の人々を越えて次男宗盛右大将と言う官に上がった。

【出典】CHJ サンプル ID : 40-天平 1592_01003, 『天草版平家物語』, 1592 年

¹¹ 表 2 における「無理+無助詞」は 5 例とも動詞「言ふ」が後続している。

¹² 表 2 における複合名詞 17 例の内訳は、無理酒・無理難題各 4 例、無理非道 2 例、無理起請・無理隠居・無理事・無理止め・無理飲み・無理死に・無理過言各 1 例である。

- b. しょうよこびて、太郎くわじやにきせてみたがるを、いやがれども、無理にきせて、

【出典】CHJ サンプル ID : 40-虎明 1642_01016, 『虎明本狂言集』「隠笠」,
1642 年

これらの全 245 例には、本発表の目的とする現代語の副詞や応答表現の用法とのかかわりは、現時点では見いだせない。

5.2 近代の「無理」の用例

表 3 は、CHJ における近代の「無理」の用例を時代別・サブコーパス別にまとめたものである。江戸時代までと比べ、用法も形式も多様化してきたことが窺える。

表 3 CHJ における近代の「無理」の用例数

用法	形式	明治			大正		昭和	計	%
		初期口語	雑誌	教科書	雑誌	教科書	教科書		
連体修飾	無理な	12	25		37		1	75	7.5
	無理なる	0	32		5			37	3.7
	無理の	2	13		7			22	2.2
	無理無体な				1			1	0.1
副詞	無理に	7	116	2	105	1	11	242	24.1
	無理無体に	1	6		0			7	0.7
	無理無残に	1	0					1	0.1
	無理往生に	2	2		3			7	0.7
	無理無理に		1					1	0.1
	無理無性に		2					2	0.2
	無理槍に		2		2			4	0.4
	無理強いに		2		2			4	0.4
	無理押しに				1			1	0.1
	無理から		3					3	0.3
動詞	無理する		1					1	0.1
	無理押しする		1					1	0.1
	無理強いする				1			1	0.1
名詞	無理+無助詞 ¹³		3		1			4	0.4
	無理+格助詞	2	49		89			140	13.9
	無理+副助詞	1	62	2	105		3	173	17.2
述語	無理+copula	5	116	1	80		3	205	20.4

¹³ 表 3 における「無理+無助詞」に後続する語は、「言ふ」「あり」「なし」「至極なり」各 1 例である。

	無理 ¹⁴				2			2	0.2
	無理+modality		1		2			3	0.3
	無理+終助詞		2					2	0.2
複合名詞	無理非道など ¹⁵	18	30		17			65	6.5
	意味・用法不明				1			1	0.1
	計	51	469	5	461	1	18	1005	100

表 3 から読み取れる近代の「無理」の特徴としては、副詞用法に多様な形式が出現していること、副詞用法と述語用法が拮抗する割合を占めていること、サ変動詞の用法が出現していることなどが挙げられる。

応答表現の用法はまだ見出せない。ただし、(8a)・(8b)の用例は、次節で見る(12a)などに近く、「無理」を用いた応答表現の萌芽と見なせなくもない。

また、副詞用法には「無理無理に」という反復形式が(8c)の 1 例見出された。これ以外にも、「無理無体に」「無理無残に」「無理無性に」「無理檜に」といった準反復形式もある。ただし、裸の形式は見られない。

- (8) a. 「なぜ否だ。あんな好い學校。」「教師が不公平です。問題を残らず答へを書いたのに落第させました。」「それは無理だな。」「本を見て答へを書いたンですもの、皆よく遣りました。」

【出典】CHJ サンプル ID : 60M 太陽 1895_09056, 『太陽』, 1895 年

- b. 『俺ねも釣れるやらかね?』と海男は眞面目に訊いた。『さうやね、少し無理やね、何せ十五六尋も深いところから釣りあげるのやし、第一道具の操縦が出来んないね。』 【出典】CHJ, サンプル ID : 60M 太陽 1917_04040, 『太陽』, 1917 年

- c. 來月から開校といふ前月下旬に入つても、志願者タツタ二十五人！これではならぬと、一同血眼になり、規則書を貰ひに来る者は片つ端から引き止めて、無理無理にも入學の手續をさせ、やつと七十數名を帳簿の上に見たのである。

【出典】CHJ, サンプル ID : 60M 女世 1909_16018, 『女学世界』, 1909 年

なお、『日本国語大辞典第二版』には裸の形式の例として(9a)・(9b)・(9c)が挙げられている。(9a)が江戸時代における孤例であるかどうかはさらに調査を進めなければ判断できないが、『角川古語大辞典』によればこの例は「やり梅」と掛けた技巧であるという。

¹⁴ 表 3 における述語「無理」2 例は、「武富だけは申分のない男ぢやが、高田は今更政黨の人となるのが無理、其の他の連中はモウ頭が利かぬやうになつて居る人達ばかりぢやないか。」(CHJ, サンプル ID: 60M 太陽 1917_10007, 前田蓮山(作)「外交調査會消息」, 1917 年)、「横田が最近に於ける無理の初めは高橋内閣改造計畫だ。(略)無理も無理、天下の大無理と云ふものだよ。」(CHJ, サンプル ID: 60M 太陽 1925_04026, 前田蓮山(作)「政界鬼語」, 1925 年)である。

¹⁵ 表 3 における複合名詞 65 例の内訳は、無理非道 13 例、無理算段 12 例、御無理御尤も 10 例、無理心中 7 例、無理難題 3 例、無理強い・無理情死各 2 例、無理無法・無理不自然・無理手段・無理我儘・無理こじつけ・無理無茶苦・無理業・無理筋・無理手段・無理押し・無理押付・無理隠居・無理暇・無理注文・無理募集・無理問い各 1 例である。

- (9) a. 俳諧・鷹筑波集〔1638〕－「手折んはむりやり梅のかきやぶり〈野網〉」
 b. 鉛の卵〔1957〕〈安部公房〉八「彼はむりやり、自分に言いかせるのだった」
 c. 生〔1908〕〈田山花袋〉一五「無理無理出て来たのさ」

Japan Knowledge Lib 『日本国語大辞典第二版』

このような副詞用法の裸の形式や反復形式が、現代語の(3)・(5)のような裸の形式の応答表現の出現に関連するかどうかは、現時点では判断できない。ただし、「無理無理」のアクセントの点では、副詞用法は「HLLL」と一語化しているが、応答表現用法は「HLHL」であり、語彙化は副詞用法が先行している。これは、ここまでのコーパス調査の結果と矛盾しない。今後、今回の調査対象以外のコーパスやデータベースの用例を調査し、詳細を調べてゆく必要がある。

5.3 現代語会話コーパスにおける「無理」の用例

表4は、現代語の会話コーパスの「無理」の用例をまとめたものである。本稿で見いだそうと努めてきた「無理」の応答表現の用法や反復形式は、現代に入って広まってきた、新しい用法であることがわかる。反復形式は、応答表現の用法のほか、副詞用法や述語用法にも見られる。ただし、「無理」を3回以上反復する形式は、述語用法および応答表現の用法のみであり、副詞用法には見られない。

表4 現代語の会話コーパスにおける「無理」の用例

用法	形式	CWPC	NUCC	CEJC	計	%
連体修飾	無理な	3	4	3	10	2.3
副詞	無理に	1	6	3	10	2.3
	無理無理に	0	1	1	2	0.5
	無理なく	1	1	2	4	0.9
	無理無理	0	0	3	3	0.7
名詞	無理+格助詞	0	14	5	19	4.3
	無理+副助詞	0	0	1	1	0.2
動詞	無理する	5	11	8	24	5.5
述語	無理+copula	15	147	99	261	59.5
	無理+modality	2	6	1	9	2.1
	無理+終助詞	1	10	6	17	3.9
	無理	4	22	14	40	9.1
	無理無理	0	1	0	1	0.2
	無理無理無理	0	0	0	0	0.0
	無理無理無理無理	0	1	1	2	0.5
応答表現	無理無理無理無理無理無理	0	0	1	1	0.2
	無理	1	10	6	17	3.9
	無理無理	0	7	2	9	2.1
	無理無理無理	0	3	2	5	1.1
意味・用法不明	無理無理無理無理	0	3	0	3	0.7
	計	33	248	158	439	100.0

(10)は副詞用法、(11a)から(11e)は応答表現の用法の例である。

表 4 において応答表現に分類したものは、(11a)・(11b)のように、発話境界を示す「#」の間の「無理」の単独もしくは反復形式である。ただし、CEJC の表記には句読点を用いられていないため、(11b)・(11c)のような読点の有無は区別せず、ともに「無理無理」として集計した。

また、上記の分類原則を厳密に適用すれば、(11d)「#うーん。#無理。#」の「無理」は応答表現、(11e)「#うーん、無理。#」の「無理」は非応答表現ということになる。このような境界例は非常に多く、表 4 の数値は暫定的に、「えー」「うーん」といったフィラーなどを含むものも応答表現に含めて数えた¹⁶。

(10) #なんかあの昔は奴隷使って無理無理働かしてなんか王さまの権力で建てさしたとかゆうんだっただけ#

【出典】CEJC, 会話 ID: T001_014 話者 ID: IC02_師匠, 45-49 歳, 男性

(11) a. F059 #で、お姉ちゃんと今日話ししてみて。#

F043 #無理。#

F059 #どうして?#

F043 #わからんけど。#

F059 #会えたら話しして。#いい?#

【出典】NUCC, 会話 ID: data085, 発話者 ID: F043, 10 代後半, 女性¹⁷

b. IC01_直也 #背筋とか伸ばしてない#だいじょぶ

IC03_永井 #だいじょぶだいじょぶ

IC02_みっちー #意識します#もうちょっと

IC01_直也 #えっ#無理無理#

【出典】CEJC, 会話 ID: T002_020, 話者 ID: IC01_直也, 40-44 歳, 男性

c. F037 #で、先生どこ移れば?

F128 #移れない、移れない。#

F037 #なんで?#

F128 #無理、無理。#

F037 #あ、そうなんだ。#

【出典】NUCC, 会話 ID: data098, 発話者 ID: F128, 20 代前半, 女性

d. M033 #それに関する言葉をね、でたらめな使い方でいっぱい入れておけばねえ#

F001 #無理。#

M033 #なんで。#

F001 #無理だよ。#

M033 #だからなんで。#

F001 #うーん。#無理。#

¹⁶ 「フィラー」は、コーパスで「感動詞-フィラー」のタグが付与されているものとした。

¹⁷ 理解しやすさのため、話者交代などコーパス本文に補足する。話者情報は、下線部の発話のものである。

【出典】 NUCC, 会話 ID: data046, 発話者 ID: F001, 20 代前半, 女性

- e. F10E #これ無理ですねー。#
F10A #うん。#
F10E #ぜったい、無理ですねー。#
F10A #うーん、無理。#

【出典】 CWPC, 会話 ID:F10Q141, 発話者コード: F10A, 42 歳, 女性

- (12) a. F004 #私も将来生むときさー、2人目のつもりで1人目を育ててみたい。#
F019 #そりゃ、無理だよー。#

【出典】 NUCC, 会話 ID: data051 発話者 ID: F019, 20 代後半, 女性

- b. IC03_龍之介 #俺あの辺は#
IC01_徹 #あ消えちゃったよみたいな感じだもん#
IC03_龍之介 #そう#あの辺は絶対無理#
IC02_大場 #うん#

【出典】 CEJC, 会話 ID: T010_004 話者 ID: IC03_龍之介, 20-24 歳, 男性

- c. M013 #思い切って教室開けば?#免許別にいらんのやろ。#
M011 #そんなもん、無理無理。#
M013 #なんで。#

【出典】 NUCC, 会話 ID: data116 発話者 ID: M011, 20 代後半, 男性

- d. IC02_紀子 #ダそろそろまた間違えないかなと思って待ってるんだけど#
IC03_晴美 #そりゃ無理無理無理無理無理#

【出典】 CEJC, 会話 ID: T003_021 話者 ID: IC03_晴美, 45-49 歳, 女性

また、(12)は述語用法の例であるが、機能は応答表現と変わらず、準応答表現とも呼べるものもある。(12a)は copula を伴うが、(12b)・(12c)・(12d)は裸の形式である。(12b)のように単独であれば copula を補うことも可能であるが、(12c)・(12d)のような反復形式は copula の脱落・省略とは考えにくく、応答表現の用法と連続的と言うことができる。

このような応答表現・準応答表現・非応答表現の連続性は、応答表現の出現の契機を示唆するものであるかもしれない。他のコーパスやデータベースの用例も収集し、分析の精度を高めてゆく必要がある。

6. 考察

ここまでの調査結果からは、「無理」の(2)~(5)のような意味・用法が本格的に出現し、拡大した時期は現代と言える。詳細に関する結論はまだ出せないが、若干の考察を加えたい。

表 2~4 を見ると、「無理」の裸の形式は、「無理+無助詞」「複合名詞」「副詞」「述語」「応答表現」で使用されている。

副詞用法の「無理」の裸の形式の増加は、近年注目を集めている「結果」「基本」「原則」などの漢語名詞の語用論的標識化と関連するかもしれない。これは、「その結果として」「基本的に」「原則として」といった表現の文法的機能を担う部分が脱落して用いられるようになり、その形式が対人的かつテキスト的機能を担うようになる現象である。語用論的標識として用いられる表現の歴史をたどると、実質的意味を持つ単語・句・節などに由来するものが多いことがさまざまな言語で報告されている。「無理無理に」から「無理無理」へ、

「無理やりに」から「無理やり」への変化も、軌を一にするとと言えるだろう。

さらに、「無理無理」などの反復形式の増加もまた、近年盛んに見られる現象である。類例として、「都度都度」(北原編 2011)、「ほぼほぼ」(野口 2016)、「あるある」「いるいる」(鈴木 2016、Ono and Suzuki 2018)などが挙げられる。「都度都度」「ほぼほぼ」は副詞、「あるある」「いるいる」は本発表でいうところの応答表現である¹⁸。こうした反復表現の機能には、強調や感情の共有などがあり、語用論的標識の特徴を示していると考えられる。

応答表現の「無理」がどのような過程を経たものであるかは現時点では不明だが、裸の形式の副詞用法や述語の「無理だ」などからの文法的接辞の脱落による変化である可能性は小さくないのではないだろうか。詳細な分析は今後の課題である。

7. おわりに

本発表では、漢語名詞「無理」の歴史を、複数のコーパスを用いてたどった。その結果、文法的接辞を伴わない「無理」の裸の形式や「無理無理」などの反復形による、断り・不承諾の意味を表す応答表現としての用法は近代までには見られず、観察されるようになるのは現代に入ってからのことであることがわかった。

今回の調査は、形式・用法の変化をたどるにとどまり、意味変化まで追えなかった。(4)の例としては(3c)のようなものがあるが、(5)のようなプラスの意味の例は見出せていない。

今後、さらに調査対象を拡大し、用例を精査することにより、漢語名詞の語用論的標識化をめぐる課題を明らかにしていきたいと考える。

謝 辞

本研究は、日本学術振興会科学研究費補助金による基盤研究(C)「英語破格構文の歴史的発達と談話基盤性について—構文化の時間的・空間的拡がり—」(研究代表：柴崎礼士郎、課題番号: 19K00693)、同「漢字文化圏における漢語の語用論的標識化」(研究代表：高橋圭子、課題番号: 20K00650)の助成を受けている。

参考文献

- 柏野和佳子 (2019) 『『日本語日常会話コーパス』モニター公開版に見られる応答表現』 国立国語研究所『言語資源活用ワークショップ発表論文集』 4, pp. 368–380.
(<http://doi.org/10.15084/00002589> よりダウンロード可能)
- 北原保雄(編) (2011) 『問題な日本語その4』 大修館書店
- 現代日本語研究会 編(2011) 『合本 女性のことば・男性のことば(職場編)』 ひつじ書房
- 三枝令子 (2013) 「名詞から副詞, 接続詞へ」『一橋大学国際教育センター紀要』 4, pp. 49–61.
(<https://doi.org/10.15057/26706> よりダウンロード可能)
- 澤田治美・澤田治・澤田淳(訳) (2018) 『談話分析キータム辞典』 開拓社 Paul Baker and Sibonile Ellece (著)(2011) Key Terms in Discourse Analysis. London: Continuum.
- 椎名美智 (2016) 「歴史語用論」加藤重広・滝浦真人(編)『語用論研究方ガイドブック』 ひつじ書房, pp. 105–131.
- 椎名美智(監訳) (2020) 『新しい語用論の世界』 研究社 Jonathan Culpeper and Michael Haugh

¹⁸ 鈴木(2016)は「反応表現」という語を用いている。本発表のいう「応答表現」と鈴木(2016)のいう「反応表現」には相違点もあるが、本発表の議論に関わる範囲ではほぼ同義と考えられる。

- (著) (2014) *Pragmatics and the English Language*. London: Palgrave Macmillan.
- 柴崎礼士郎 (2017) 「談話構造の拡張と構文化について：近現代日本語の『事実』を中心に」
加藤重広・滝浦真人(編)『日本語語用論フォーラム 2』ひつじ書房, pp. 107–133.
- 鈴木亮子 (2016) 「会話における動詞由来の反応表現—「ある」と「いる」を中心に—」井
出祥子・藤井洋子(監修)藤井洋子・高梨博子(編)『コミュニケーションのダイナミズム』
ひつじ書房, pp. 63–83.
- 高田博行・椎名美智・小野寺典子(編) (2011) 『歴史語用論入門』大修館書店
- 高田博行・渋谷勝己・家入陽子(編) (2015) 『歴史社会言語学入門』大修館書店
- 高田博行・小野寺典子・青木博史(編) (2018) 『歴史語用論の方法』ひつじ書房
- 高橋圭子・東泉裕子 (2018) 「名詞「結果」の用法の拡張—近代語および現代語コーパスの
用例より—」社会言語科学会『社会言語科学』21:1, pp. 255–270.
(https://doi.org/10.19024/jajls.21.1_255 よりダウンロード可能)
- 高橋圭子・東泉裕子・佐藤万里 (2018) 「『了解』は使わないように」「了解です！」国立国
語研究所『言語資源活用ワークショップ発表論文集』3, pp. 57–67.
(<http://doi.org/10.15084/00001638> よりダウンロード可能)
- 高橋圭子・東泉裕子 (2019) 「『勿論』考」国立国語研究所『言語資源活用ワークショップ発
表論文集』4, pp. 128–138.
(<http://doi.org/10.15084/00002561> よりダウンロード可能)
- 高橋圭子・東泉裕子 (2020) 「語用論的標識としての『勿論』の歴史」東洋大学人間科学総
合研究所『東洋大学人間科学総合研究所紀要』22, pp. 197–208.
(https://www.toyo.ac.jp/-/media/Images/Toyo/research/labo-center/ihs/bulletin/kiyou22/22_p197-208.ashx?la=ja-JP&hash=CCC3928BD2B4A6A226988903FD3588920BCC8C28 よりダウンロード可能)
- 趙英姫 (2013) 「近現代の漢語副詞の成立」野村雅昭(編)『現代日本漢語の探究』東京堂出版、
pp. 214–233.
- 土屋菜穂子 (2012) 「OPI(Oral Proficiency Interview)に見られる聞き手の応答表現「なるほど」
について」青山学院大学日本文学会『青山語文』42, pp.54–68.
(<https://www.agulin.aoyama.ac.jp/repo/repository/1000/12857/>よりダウンロード可能)
- 長澤規矩也(編) (1975) 『和刻本漢詩集成第七巻』汲古書院
- 鳴海伸一 (2015) 『日本語における漢語の変容の研究：副詞化を中心として』ひつじ書房
- 野口恵子 (2016) 『「ほぼほぼ」「いまいま」クイズおかしな日本語』光文社新書
- 蓮沼昭子 (2018) 「自然談話における副詞の応答用法 —「もちろん」「たしかに」「なるほど」
を例に—」創価大学日本語日本文学会『日本語日本文学』28, pp. 1–26.
(https://soka.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=39594&file_id=15&file_no=1 よりダ
ウンロード可能)
- 藤村逸子・大曾美枝子・大島デイヴィッド義和 (2011) 「会話コーパスの構築によるコミュ
ニケーション研究」藤村逸子・滝沢直宏(編)『言語研究の技法：データの収集と分析』 pp.
43–71.
- Brinton, Laurel J. (2017) *The Evolution of Pragmatic Markers in English: Pathways of Change*.
Cambridge: Cambridge University Press.
- Higashiizumi, Yuko and Keiko Takahashi (2020) “The development and use of *mochiron* as a
pragmatic marker in Japanese”, 『日本認知言語学会論文集』20, pp. 483–488.

- Jucker, Andreas H. and Irma Taavitsainen (eds.) (2010) *Historical Pragmatics*. Berlin/New York: Mouton de Gruyter.
- Ono, Tsuyoshi and Ryoko Suzuki (2018) “The use of frequent verbs as reactive tokens in Japanese every day talk: Formulaicity, florescence, and grammaticization”, *Journal of Pragmatics* 123, pp. 209–219.
- Shibasaki, Reijirou (2018) “From the inside to the outside of the sentence: Forming a larger discourse unit with *jijitsu* ‘fact’ in Japanese”, In Sylvie Hancil, Tine Breban and José Vicente Lozano (eds.), *New Trends on Grammaticalization and Language Change*. Amsterdam: John Benjamins, pp. 333–360.
- Shibasaki, Reijirou (2019a) “From nominal predicate to pragmatic markers in the history of Japanese: With special reference to East Asian languages”. Paper presented at International Conference on Trends in Linguistics (CTL), University of Rouen, 28–29 March.
- Shibasaki, Reijirou (2019b) “On the rise of *douride* ‘no wonder’ as a projector and the reformulation of discourse sequential relations in Japanese”. In Shin Fukuda, Mary Shin Kim and Mee-Jeong Park (eds.), *Japanese/Korean Linguistics 25*. Stanford, CA: CSLI Publications, pp. 383–395.
- Shinzato, Rumiko (2017) “Grammaticalization of PMs/DMs/MMs in Japanese”, In Chiara Fedriani, Andrea Sanso (eds.), *Pragmatic Markers, Discourse Markers and Modal Particles: New perspective*. Amsterdam: John Benjamins, pp. 305–333.

辞典・辞典

- 小松寿雄・鈴木英夫(編) (2011) 『新明解語源辞典』三省堂
- 諸橋轍次(著)鎌田正・米山寅太郎(修訂増補) (2018) 『大漢和辞典』大修館書店
- 新村出(編)(2018) 『広辞苑 第七版』岩波書店
- 室町時代語辞典編修委員会(編)(2001) 『時代別国語大辞典 室町時代編五』三省堂

関連 URL

- アナウンサーズ 日本語研究室 <https://www.tv-asahi.co.jp/announcer/nihongo/labo/body.html>
- コーパス検索アプリケーション『中納言』 <https://chunagon.ninjal.ac.jp/>
- 国立国語研究所コーパス開発センター https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/
- ananNEWS 2018年11月10日 <https://ananweb.jp/news/201811/>
- Japan Knowledge Lib <https://japanknowledge.com/library/>
- 『日本国語大辞典第二版』『デジタル大辞泉』『角川古語大辞典』
- Weblio 辞書 三省堂 大辞林 <https://www.weblio.jp/cat/dictionary/ssdjj>